

第 2 期伊豆の国市まち・ひと・しごと創生総合戦略 内部評価書 (令和 4 年度実績の評価)

1 第 2 期伊豆の国市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要

(1) 目的・位置付け

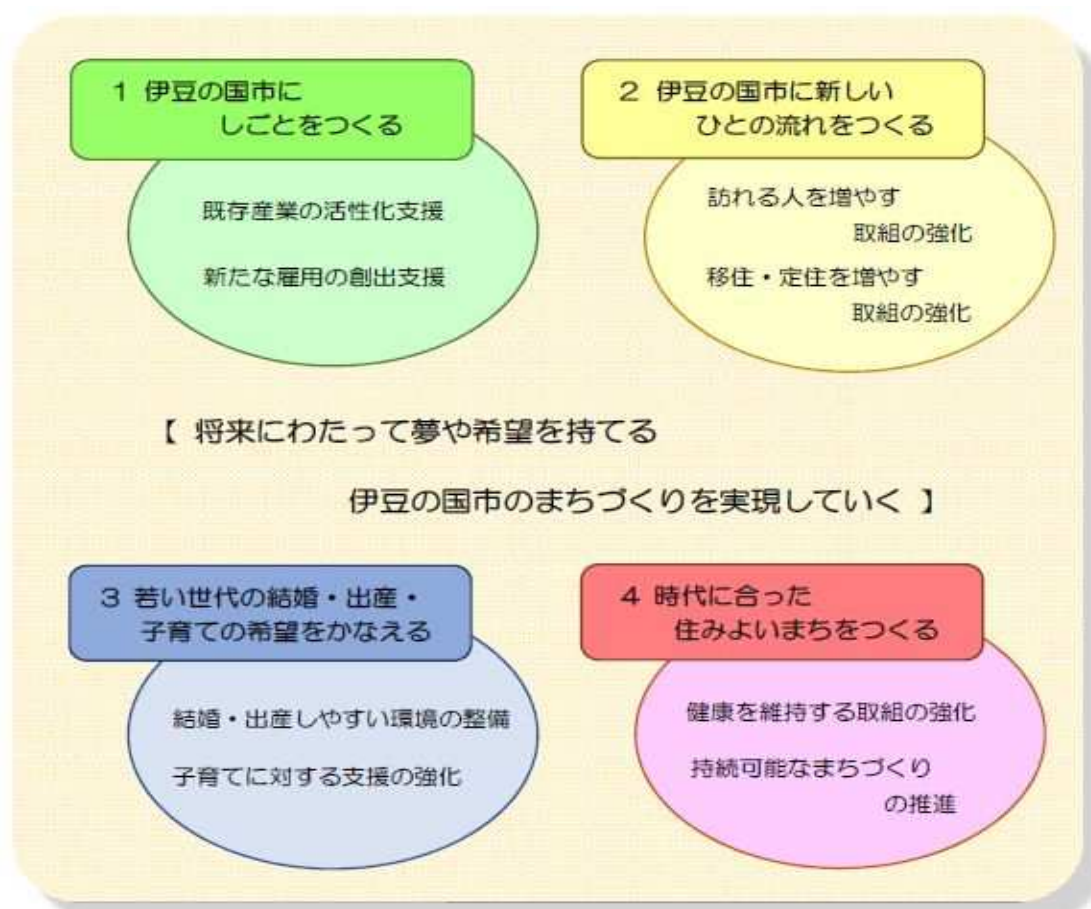
将来にわたって夢や希望を持てる伊豆の国市のまちづくりを実現していくことを目的とし策定された。

人口減少の克服と地域活力の維持・増進を図るため、伊豆の国市人口ビジョンの中で、本市の現状と将来を分析し、政策の選択と集中による長期的な取組をまとめたものであり、本市の最上位計画である第 2 次伊豆の国市総合計画（平成 29 年度～令和 7 年度）との整合性を図りながら、各分野を横断的に取り組む戦略である。

(2) 計画期間

令和 2 年度から令和 6 年度までの 5 年間

(3) 体系イメージ



2 評価の方法

(1) 内部評価

重要業績評価指標（KPI）を基に基本目標ごとの評価及び検証を行った。基本目標ごとの評価区分については、以下のとおりとする。

【評価区分】

区分	判断基準 (令和4年度におけるKPI)
達成	すべてB以上
概ね達成	B以上が3～4項目
一部達成	B以上が1～2項目
未達成	B以上が0項目

今後、外部評価をいただき、結果についてはHPにて公開する。

3 基本目標ごとの内部評価及び検証

(1) 基本目標1 伊豆の国市にしごとをつくる

ア 基本目標の柱

- ・伊豆の国市にしごとをつくるため、既存産業の活性化を支援します。
- ・伊豆の国市にしごとをつくるため、新たな雇用の創出を支援します。

イ 評価・効果検証

進捗状況		重要業績評価指標（KPI）
A	4項目	①市内製造業の製造品出荷額 ②市内小売業の小売販売額 ③市内農家の農業産出額 ⑤創業塾を受けて起業した件数
B	0項目	—
C	1項目	④企業立地補助金を活用した企業数
D	0項目	—

B以上が4項目（80%）であったため、「概ね達成」と評価する。

「①市内製造業の製造品出荷額」については137,423百万円で、期待値の128,600百万円を大きく上回った。数年前に企業誘致した事業所をはじめとする製造業の業績が、コロナ禍の影響を受けず順調であったことが要因と考えられる。

「②市内小売業の小売販売額」については50,084百万円で、期待値の45,050百万円を上回った。

「③市内農家の農業産出額」については、4,320百万円で、期待値の4,130百万円を上回った。

これら②小売販売額及び③農業算出額については、引き続き消費拡大及び農業生産の支援に努める。

「④企業立地補助金を活用した企業数」1件については、目標値2件を下回る結果となった。工業用地が不足しており、市内に企業進出を希望する事業所があってもそのニーズに応じられていないところに課題がある。

「⑤創業塾を受けて起業した件数」については、累計39件となり期待値24件を上回った。令和4年度の単年度では15件増加した。今後も国や県と協調して個人消費を喚起しつつ、伊豆の国市商工会と連携し、店舗や中小企業の実態把握に努め、その事業者にあった最適な方法による支援を実施していく。

(2) 基本目標2 伊豆の国市に新しいひとの流れをつくる

ア 基本目標の柱

- ・伊豆の国市に新しいひとの流れをつくるため、伊豆の国市を訪れる人を増やす取組を強化します。
- ・伊豆の国市に新しいひとの流れをつくるため、移住・定住者を増やす取組を強化します。

イ 評価・効果検証

進捗状況		重要業績評価指標 (KPI)
A	3項目	②道の駅の来場者数 ③レンタサイクルの利用者数 ⑤移住相談等を通じた移住者数
B	0項目	—
C	0項目	—
D	2項目	①観光交流客数 ④スポーツイベントの参加者数

B以上が3項目（60%）であったため、「概ね達成」と評価する。

「①観光交流客数」については、187万人で目標値214万人を下回った。コロナ禍による影響を受け、期待値には達しなかったが、大河ドラマ等を活用した魅力の効果的な情報発信を推進しつつ、新しい旅行形態に対応した環境整備や市民との協働による持続的な地域振興に繋がる取組を強化し、前年度の121万人から187万人と約1.5倍に増加した。コロナ禍前の水準に戻せるよう引き続き情報発信等に努める。

「②道の駅の来場者数」については、89万人で期待値38万人の2倍、前年比で9万人の増加となった。

「③レンタサイクルの利用者数」については、7,143人で期待値の1,100人を大幅に上回った。前年の1,871人から5,200人以上増加したことは、シェアサイク

ルの設置場所の拡大に伴い、周知が行き届いてきたことと大河ドラマの効果により来訪者が増えたことの相乗効果が大きな要因と考えられる。

「④ スポーツイベントの参加者数」については、1,146 人であった。コロナの感染状況を見つつ、誰もが気軽に楽しめる教室等、スポーツに参加する市民の拡大を図った。コロナ禍による影響を受けた前年比で参加者数は 1.3 倍に増加したが、期待値 3,800 人には届かなかった。今後は、東京オリンピック・パラリンピック自転車競技のレガシーを活かすとともに、かわまちづくり事業などと組み合わせる環境整備等を推進していく。

「⑤住相談等を通じた移住者数」については、73 人で、期待値 30 人を大きく上回った。地方への移住ブームを追い風に、コロナ禍で一般化した Zoom 等によるオンライン相談など、移住相談の手段を増やしたことや、首都圏における県と協調して実施する対面による移住相談会の再開などが要因と考えられる。今後も引き続き移住者の増加に努める。

(3) 基本目標 3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

ア 基本目標の柱

- ・若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえるため、結婚・出産しやすい環境を整えます。
- ・若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえるため、子育てに対する支援を強化します。

イ 評価・効果検証

進捗状況		重要業績評価指標 (KPI)
A	2 項目	③保育園待機児童数 (4 月 1 日時点) ⑤伊豆の国子育てモバイル登録者数 (3 月末時点)
B	0 項目	—
C	0 項目	—
D	3 項目	①婚姻届出数 ②出生数 ④ファミリーサポートセンター事業利用者数

B 以上が 2 項目 (50%) であったため、「一部達成」と評価する。

「① 婚姻届出数」については、1,283 件(累計)で期待値 1,396 件 (累計) に届かなかった。

「②出生数」については、699 件 (累計) でこれも期待値 791 件 (累計) に届かなかった。

これらの①婚姻数、②出生数については、子育てに関する支援の充実以外にも、市内の経済活性化、出会いの創出、住環境の整備等の様々なものを複合的に推進

していく必要があると考えられる。

「③保育園待機児童数（4月1日時点）」については、0人で期待値もクリアしているため、今後もこの状態を継続できるよう努める。

「④ファミリーサポートセンター事業利用者数」については、186人で期待値528人を大きく下回った。これはコロナ禍の影響を受けたことが大きな要因と考えられる。今後は、まかせて会員の増員が利用者数増加の大きな要因となるため、まかせて会員の増員に向けた情報発信など検討していく必要がある。

(4) 基本目標4 時代に合った住みよいまちをつくる

ア 基本目標の柱

- ・時代に合った住みよいまちをつくるため、健康を維持・増進する取組を強化します。
- ・時代に合った住みよいまちをつくるため、持続可能なまちづくりを推進します。

イ 評価・効果検証

進捗状況		重要業績評価指標（KPI）
A	1項目	①お達者度（男性）
B	0項目	—
C	1項目	②お達者度（女性）
D	3項目	③生涯学習きっかけづくり塾参加者数 ④「防災対策」の市民満足度 ⑤「防犯対策」の市民満足度

B以上が1項目（20%）であったため、「一部達成」と評価する。

「①お達者度（男性）」については、前回公表の指標から0.4ポイント上昇し、18.37となったため、令和6年度の目標値を達成した。

「②お達者度（女性）」については、21.44で期待値22.00には達しなかった。これらの①、②のお達者度については、介護予防活動などの成果と思われるため、引き続き健康寿命を延ばす施策を、男女を問わず継続していく。

「③生涯学習きっかけづくり塾参加者数」については、1,372人で期待値5,000人には届かなかった。今後は、コロナ禍前の平成30年の4,917人のような水準に戻るよう、状況を見つつ開催していく。

「④防災対策の市民満足度」については、令和4年度の実績が図れる時点での市民アンケート調査等を実施していないため、令和3年度の数値をスライドさせている。今後も自主防災会及び消防団と連携し、共助による防災体制を強化しつつ、防災意識の醸成を推進し、自助防災の強化を図るとともに、広域連携を強化し、緊急時の情報収集及び情報発信を強化していく。

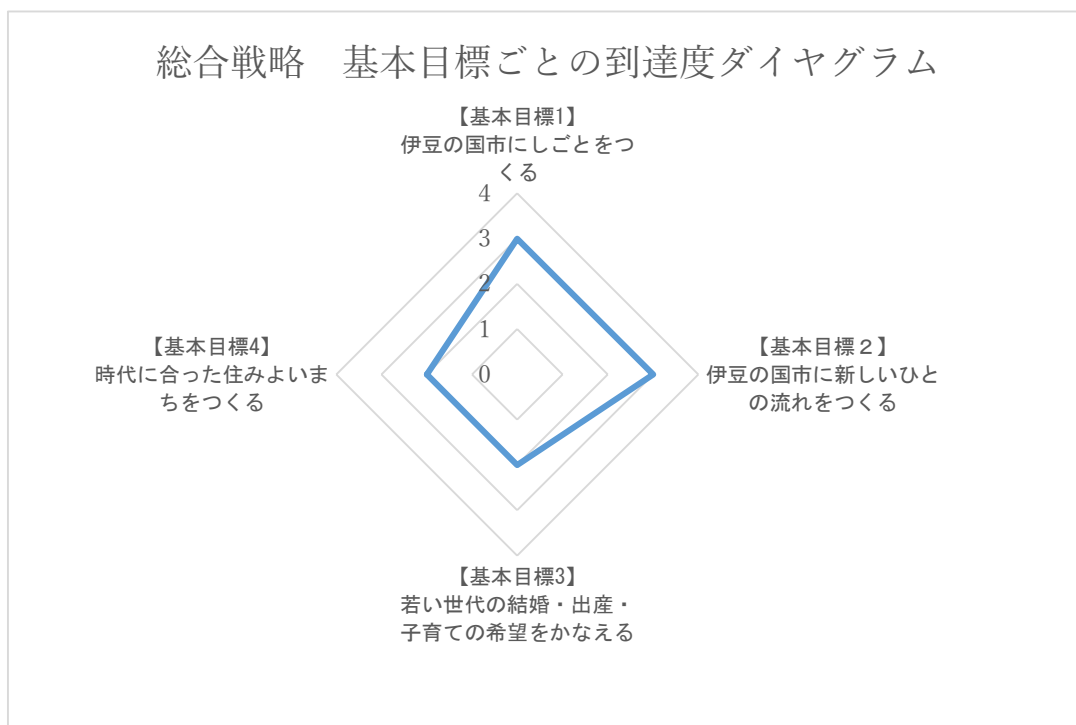
「⑤「防犯対策」の市民満足度」についても、令和4年度の実績が図れる時点で

の市民アンケート調査等を実施していないため、令和3年度の数値をスライドさせている。今後も地域と連携した防犯対策や防犯啓発活動を実施するほか、関係機関との連携を強化し、犯罪被害者等の支援を推進していく。

4 総合戦略全体の内部評価

(1) 基本目標ごとの進捗度一覧表

基本目標	進捗度	評点
【基本目標1】 伊豆の国市にしごとをつくる	概ね達成	3
【基本目標2】 伊豆の国市に新しいひとの流れをつくる	概ね達成	3
【基本目標3】 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	一部達成	2
【基本目標4】 時代に合った住みよいまちをつくる	一部達成	2



【判断基準】

区分	実績値	評点
達成	すべてB以上	4
概ね達成	B以上が3~4項目	3
一部達成	B以上が1~2項目	2
未達成	B以上が0項目	1

(2) 検証

4つの基本目標のうち、「伊豆の国市にしごとをつくる」と「伊豆の国市に新しいひとの流れをつくる」の2つの項目で「概ね達成」という結果であった。

一方で、「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」と「時代に合った住みよいまちをつくる」の2項目については、「一部達成」という結果であった。

人口減少対策には、「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」ことが必要である。

それには、子育てに関する支援の充実をはじめとして、結婚・出産を望む人にそれぞれ結婚や出産に踏み出すことを後押しするための個人の経済基盤の確立のため仕事をつくるための市内の経済活性化、出会いの創出、住環境の整備等の様々なものを複合的に推進していく。

5 令和4年度伊豆の国市まち・ひと・しごと創生推進計画（企業版ふるさと納税）の効果検証

(1) 数値目標…総合戦略における基本目標1～4の数値目標に同じ

(2) 令和4年度寄附実績

企業名（所在地）	寄附活用事業	寄附金額
第一生命保険(株) (東京都千代田区)	かわまちづくり事業	500,000円

(3) 取組方針

今回受納した1件の企業版ふるさと納税による寄附金は、かわまちづくり事業に活用するものとして受納した。

令和4年度は活用せず、基金に積み立てた。令和5年10月に川の駅伊豆城山が供用開始したため、今後、寄附金を当該事業に活用する予定である。そのため、基本目標への寄与については「今後、寄与する」ことが予測される。